

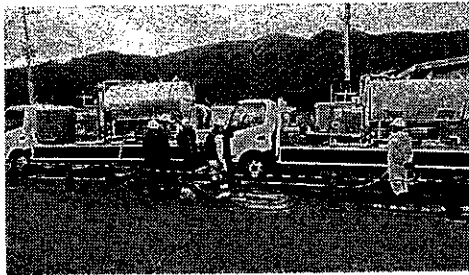
2017年(平成29年)4月19日

舞鶴市上下水道部発注の圧送管洗浄業務で、アイスピグ管内洗浄工法が採用された。受注者は舞鶴厚生(森孝文社長)で、施工協力会社は藤野興業(藤野正勝社長)。対象管路は昭和59年に布設されたダクタイル鋳鉄管(φ150)で、注入口の野原汚水中継ポンプ場から回収口の野原浄化センターまでの326mを一気に洗浄した。洗浄作業後には、約2割の流量改善効果が見られた。

同工法は特殊製法で製造したアイスシャーベットを用いた管内洗浄工法。伏越し部など複雑な配管形状部に堆積した夾雑物の高い除去率を誇るほか、パイオフィルム除去等による腐食環境の改善に効果を発揮する。3月末時点で全国90件、約40m³の洗浄実績をもつ。

アイスピグ工法

舞鶴市でリピートオーダー



藤野興業の製氷拠点から運搬

洗浄作業では、藤野興業の製氷拠点から運搬した含水率82%のアイスシャーベットを管内に注入しピグを形成、その後流水で一気に押し流した。約40分後に、回収口に設置した透明のアクリル管内を黒く変色したシャーベットが通過。管内の夾雑物を抱きかかえて搬送した様子が

φ150×326m 流量改善2割を確認

確認できた。後日流量を測定すると、洗浄前32・1立方m/時だったものが洗浄後には37・7立方m/時となり、約2割改善したという。

舞鶴市での同工法採用は平成27年5月、今年1月に続き3回目。同上下水道部下水道整備課管渠管理係の江上和成係長は「曲がりの多い配管でも長距離を一気に短時間で洗浄できる点、硫化水素の発生源を除去し硫化水素濃度を低減できる点を評価した」と、採用の決め手をつた。

同市のほか、伊賀市水道部(4回)や鳥取市都市整備部道路課(4回)でもリピートオーダーを着実に獲得しつつあり、圧送管に唯一対応した管内洗浄工法として全国的に認知されつつある。